

将来の旭市を担う子どもたちのために 学校再編に向けた取り組み

子どもたちにとって、将来の教育環境の公平性が保たれ、充実したものになるよう学校の再編を進めています。

今回は「(仮称)干潟地域小学校」と「(仮称)海上地域小学校」の取り組み状況を紹介します。

(仮称)干潟地域小学校

中和・萬歳・古城小を1校に統合し、統合校の位置は古城小を活用、令和9年4月開校予定で準備を進めています。

●新しい名称案は「ひかた椿小学校」に

干潟地域の小・中学生や在住者などを対象に、統合校の名称を公募した結果、321人から147点の応募がありました。その中で多かったのは「椿」「ひかた」「八万石」など、椿海や干潟八万石に関係する名称でした。

応募結果を基に、学校再編代表者会議で審議した結果、旧干潟町の「ひかた」という言葉を残したいとの意見が多く出され、最終的に「ひかた椿」を名称案として教育委員会に答申がありました。今後、市議会で条例改正の議決を経て、学校名が正式に決定されます。

●準備委員会を設置

保護者や区長、学校関係者で構成する準備委員会を設置し、校歌・校章、スクールバス、体操服、事前交流、跡地利用などを検討していきます。



(仮称)干潟地域小学校の予定地の古城小

(仮称)海上地域小学校

旭市学校再編基本方針では、海上地域の鶴巻・滝郷・嚶鳴小を1校に統合し、統合校の位置は嚶鳴小や旧海上中などを活用する方針としています。

今年7月には、保護者や区長など25人程度の委員で構成する地域検討会議を各学校に設置しました。今後も話し合いを重ね、各学校でそれぞれ意見をまとめます。

そのほかの学校では

翌年度以降、地域検討会議を順次設置していきます。設置の時期は、市ホームページで確認できます。



広報で振り返る

あの日あのときのあさひ

第24回

1989年(平成元年)9月15日号

このコーナーでは過去の広報を紹介し、その時代を振り返ります。

今回は広報あさひ平成元年9月15日号を紹介します。

表紙は、一中放送部の紹介です。この当時、東総地区内の中学校で唯一の放送部として、校内放送や映像の記録などの活動をしていました。現在のようにスマートフォンで簡単に撮影できる環境がない時代に、撮影や放送機材を扱う経験は貴重だったと思います。

そのほかは、保健推進員による「子どもの健康のつどい」です。集会施設に向き、紙芝居やゲームを通して、児童に食べ物と健康の関わりを考えてもらおうという取り組みでした。

子供たちの健康を 考えよう



8月8日、西郷町の農村広場やさきで、保健推進員共済会が主催する「子供の健康のつどい」が開かれ、同地区の小中学生11人が参加しました。

会場には、保健推進員さん4人と講師として保健センターの保健師と栄養士が参加しました。

保健師から、食生活の改善について説明や、「びょうきになつたこと」を聞き、その原因や食生活の改善について説明がありました。

また、栄養士から、食生活の改善について説明がありました。

そのほか、二階に上がると、食生活の改善について説明がありました。

子どもの健康のつどい

平成元年の主な出来事

- ドイツ「ベルリンの壁」が崩壊



表紙(一中放送部)